

令和5年度第2回学校運営協議会 記録

1. 期 日：令和5年10月17日（火）

2. 時 間：15：30～17：00

3. 場 所：松江農林高校会議室

4. 出席者：

氏 名	所 属
能海 広明	松農会 会長
上野 誠	島根大学生物資源科学部 学部長
恩田 敏子	松江市産業経済部農政課 課長
曳野 貴志	松江農林高校 PTA 会長
大岩 睦子	地域代表
矢野 俊人	松江農林高校魅力化コンソーシアムマネージャー
原 隆志	松江農林高校 校長
大庭 莊平	松江農林高校 教頭
石倉 裕子	松江農林高校 事務長
中村 丈志	松江農林高校 総務主任
藤原 智子	松江農林高校 教務主任
齋藤 寿和	松江農林高校 魅力化推進室長

5. 学校運営協議会議題

- (1) 学校運営について
- (2) 職員の任用について
- (3) その他

6. 主な意見

○生徒の状況について（魅力化アンケート結果を元に）

- ・「この学校に入学してよかった」と回答した生徒が多いことはよい。ここでしか学べないことがあるところが魅力につながっているのではないか。自分で授業を選択できるところも魅力と思われる。
- ・「社会性に関わる自己認識」が低い傾向にある。人と会って話をするなどコミュニケーション能力を高める指導をすることで改善するのではないか。
- ・自己肯定感が毎年着実に高まっているのはよい。
- ・協働して物事に取り組むことが得意だが、ひとりで取り組むのは苦手という傾向が読み取れるのではないか。
- ・地域の行事に参加したりボランティア活動に参加したりした生徒が思ったより少ない。

- ・地域でボランティア活動を推進している人に来てもらって、なぜその活動をしているのかを話してもらってはどうか。なぜボランティアをするのかを生徒にきちんと納得させないと、ただやらされた感覚で終わってしまう。
- ・学科や系列ごとに集計すると、学習内容との関係がより明確になるのではないか。
- ・「将来暮らす場所としておすすめできる」が80%を超えているのはうれしい。
- ・地域人材を講師として学校に呼ぶだけでなく、生徒が地域に出向いて行って話を聞いて学ぶ機会を作ることは意義がある。今年、総合学科で大田市大森町へフィールドワークに行き、群言堂の社員とグループワークをする学習をした。生徒の変容が見られた。

○進路指導について

- ・市内、県内の就職者が高いことはありがたいことだ。
- ・卒業生の追跡を行い、進学した生徒がどこに就職しているかを把握してはどうか。

○教員の働き方について

- ・日本全体の人口が減少する中、DX（デジタルトランスフォーメーション）は避けては通れない。授業をオンデマンド化し省力化する一方で、実習は必ず指導者が必要なので十分な人材確保を行う、ということを考えるべき。
- ・この学校規模で養護教諭1人は多様な生徒に対応するのが難しいのではないか。
- ・教員が調査への回答や資料作成に多くの時間を取られているように感じる。
- ・教員はまじめで授業の準備や教材作成を丁寧にしすぎて時間がかかっている面があるように感じる。もう少し手を抜いてよい。
- ・インセンティブを高めることが必要。成果を給与に反映するしくみを作ることが必要だ。
- ・人生100年時代である。仕事をやめても働ける環境を作る必要がある。別の業種から教育に関わりたいと思っている人材はいるので、教員免許の問題を整理して教職に入りやすいしくみを作っていくべき。